

## 水稻新品種「はまゆたか」の主要特性

春原 嘉弘・上原 泰樹\*・川村 陽一・館山 元春\*\*・諏訪 充\*\*・横山 裕正・藤村 泰樹\*\*\*

(青森県農業試験場藤坂支場・\*北陸農業試験場・\*\*青森県農業試験場・\*\*\*青森県営農大校)

Characteristics of a Newly Released Rice Variety "Hamayutaka"

Yoshihiro SUNOHARA, Yasuki UEHARA\*, Yoichi KAWAMURA, Motoharu TATEYAMA\*\*, Mitsuru SUWA\*\*, Hiromasa YOKOYAMA and Yasuki FUJIMURA\*\*\*

(Fujisaka Branch, Aomori Agricultural Experiment Station・\*Hokuriku National Agricultural Experiment Station・\*\*Aomori Agricultural Experiment Station・\*\*\*Aomori Prefectural College of Vocational Agriculture)

### 1 はじめに

寒冷地北部及びこれより以南の中山間地帯では、近年頻発する冷害により大きな被害を受けている。青森県の早生品種「キタオウ」は登熟性に優れた多収品種であるが、耐冷性が不十分であり、作付面積は減少している。このため、「キタオウ」より耐冷性が強く、品質・食味が優れた早生品種の育成が待ち望まれていた。「はまゆたか」(旧系統名：ふ系168号)は、1987年青森県農業試験場藤坂支場において早生・耐冷・良質・良食味品種の育成を目標に、「ふ系15号/奥羽321号」のF<sub>1</sub>を母とし、「キタオウ」を父として人工交配した雑種後代から選抜された品種で、1995年から青森県で奨励品種に採用された。本報では、品種育成の

過程で明らかになった「はまゆたか」の主要特性について述べ、本品種の普及、指導の参考としたい。

### 2 形態的特性

移植時の苗丈は「キタオウ」並、葉色は「キタオウ」より淡い“やや淡”である。中期の生育は草丈が「キタオウ」よりやや長く、茎数は「キタオウ」並である。稈長、穂長は「キタオウ」よりやや長く、穂数は「キタオウ」並かやや少ない短稈、偏穂重型の粳種である(表1)。稈は「キタオウ」並にやや太く、やや剛で、倒伏抵抗性は「キタオウ」並かやや劣る。粒着密度は“密”で、稀に極短芒を生じ、稈先色は“黄白”である。葉色は「キタオウ」並に淡く、止葉の葉身は立ち、穂揃いはやや劣る。

表1 生産力検定試験結果

品種名	施肥	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	倒伏 程度 (1-5)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	全重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	収量 比率 (%)	玄米 千粒重 (g)	品質
はまゆたか	標肥	8.5	9.18	0.0	71	16.5	444	145.4	44.5	106	20.7	5.2
	多肥	8.7	9.18	0.0	74	16.9	534	157.7	39.4	103	20.4	5.8
キタオウ	標肥	8.4	9.17	0.0	69	15.8	465	141.3	41.9	100	20.8	6.1
	多肥	8.7	9.15	0.0	71	16.0	537	150.2	38.2	100	20.5	6.2

注. 標肥区は1990年~1994年, 多肥区は1991~1994年の平均値である。

### 3 生態的特性

出穂期、成熟期は「キタオウ」より1日程度遅い早生に属する(表1)。耐冷性は「キタオウ」より強く“極強”である(表2)。いもち病抵抗性については、真性抵抗性遺伝子はPi-a, Pi-kを持つと推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちともに“極強”であり(表3, 表4)、系譜からみて「北海188号」由来の抵抗性をもつ可能性がある。白葉枯病抵抗性は「キタオウ」より弱い“弱”である。穂発芽性は「キタオウ」より発芽しやすい“やや易”である。収量性は「キタオウ」並に高く、特に低温年次では「キタオウ」よりまさる(表1)。

### 4 品質・食味特性

玄米の粒形は「キタオウ」並で、粒大は「キタオウ」並

の“中”である。粒厚は「キタオウ」並で、千粒重は「キタオウ」並である。玄米は光沢があり、腹白、心白の発現が少なく、品質は「キタオウ」並に良好である。搗精は「キタオウ」よりしやすく、搗精歩留りは「キタオウ」並

表2 障害型耐冷性検定結果

品種名	出穂期 (月.日)	不稔歩合 (%)	判定
はまゆたか	8.5	27.5	極強
中母36	8.5	31.9	極強
ハマアサヒ	8.3	43.9	やや強
コチミノリ	8.5	45.6	やや強
キタオウ	8.8	58.2	中
ハヤニシキ	8.9	67.5	やや弱

注. 水温を約19.5°C, 水深25~30cmとし、約40日間処理した。成績は冷害年を除く1990年, 1992年, 1994年の平均値で示した。

表3 葉いもち抵抗性検定結果

品 種 名	推定遺伝子型	発病程度	判 定
はまゆたか	<i>Pi-a, k</i>	1.5	極強
むつかおり	<i>Pi-a, k</i>	3.7	やや強
ムツニシキ	<i>Pi-a, k</i>	3.8	中
ふ系69号	<i>Pi-k</i>	5.5	弱

注. 畑晩播による。1990年～1994年の平均値で示した。

表4 穂いもち抵抗性検定結果

品 種 名	推定遺伝子型	出穂期	発病程度	判 定
はまゆたか	<i>Pi-a, k</i>	8.3	1.7	極強
マツマエ	<i>Pi-k</i>	7.29	5.1	中
ムツニシキ	<i>Pi-a, k</i>	8.11	2.7	やや強
サカキモチ	<i>Pi-a, k</i>	8.11	3.0	やや強
ふ系69号	<i>Pi-k</i>	8.12	4.5	弱

注. 1993年を除く1990年から1994年の平均値で示した。

表5 食味官能試験結果

品 種 名	総 合	外 観	香 り	味	粘 り	硬 さ	基準品種	試験回数	パネル数
はまゆたか	0.52	0.24	0.11	0.37	0.39	-0.11	キタオウ	6	9～15

注. 冷害の1993年を除く1990年から1994年に実施した試験の平均値で示した。

評価基準は-3 (悪い, 粘らない, 軟らかい) ~ 0 (同じ) ~ +3 (良い, 粘る, 硬い)。

で、精米白度は「キタオウ」より高い。食味は「キタオウ」よりまさり良好である(表5)。

### 5 栽培上の留意点

「はまゆたか」の栽培に当たっては、耐倒伏性が“やや強”とあまり強くないので、品質・食味の低下を防ぐため

にも多肥栽培は避け、施肥量は、地帯別の施肥基準に準ずる。耐冷性は“極強”であるが、品種特性を発揮させるためにも、低温時には深水灌漑で幼穂を保護する。仕上がりが早く、穂発芽性は“やや易”なので、適期刈取りにより品質の低下を防ぐ。また、白葉枯病抵抗性は“弱”であるので、常発地帯での作付は避ける。